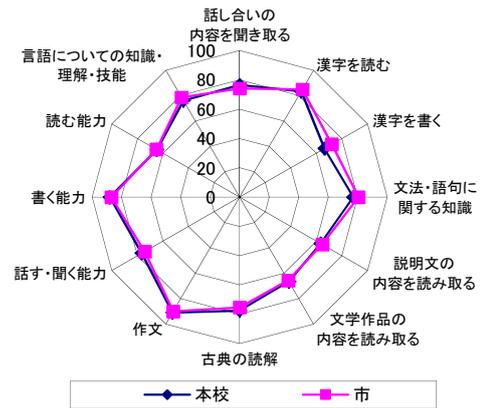


# 宇都宮市立横川中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	76.6	74.3
	漢字を読む	83.4	84.9
	漢字を書く	66.4	72.1
	文法・語句に関する知識	77.0	80.5
	説明文の内容を読み取る	63.4	64.6
	文学作品の内容を読み取る	66.6	65.6
	古典の読解	77.5	75.3
観点別	作文	91.0	90.0
	話す・聞く能力	76.6	74.3
	書く能力	88.0	86.8
	読む能力	64.8	65.1
	言語についての知識・理解・技能	76.2	78.6



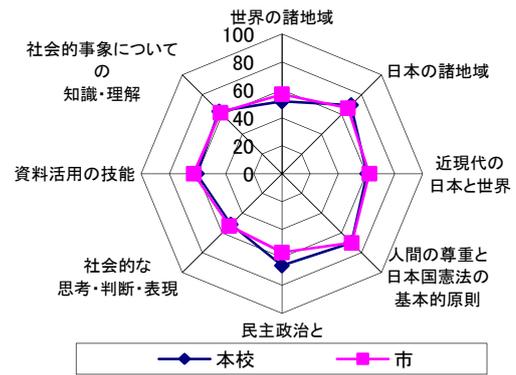
## ★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	話し合いの内容の聞き取りは76.6%と市よりも2.3ポイント上回った。特に「話の内容を正確にとらえることができる」では100%の正答率であった。授業態度も良好で、話を聞く習慣が身についている。	今後も「話の聞き取り」「話の展開の聞き取り」指導においては、授業で、意図的に学習する時間を設ける。また、発表やリスニングテスト等で意識して話を聞く時間を設ける。
漢字	漢字の読みも書きも市を下回っているが、特に書きでは5.7ポイントと大きく下ってしまった。読みは4問中1問だけが正答率が低かったのに対し、書きは4問中3問が下回り、小学校で学習した漢字が定着していないことがわかる結果となってしまった。	漢字のプリント等を使って、授業を行っているが、まだ不十分である。小学校で学んだ漢字の書き取りができるよう、漢字テストを実施して、定着を確認するなどしたい。
文法・語句に関する知識	市より3.0ポイント下回ってしまった。5問すべてが下回り、特に「慣用句」「同音異義語」については6ポイントも下がっている。	まだまだ言語に対しての知識・理解が不足している。「慣用句」「四字熟語」「熟語の構成」等については、同等の問題を解くことでもっと身につけさせたい。その知識を活用する場を持つことで、定着させたい。
説明文の内容を読み取る	市より1.2ポイント下回っている。特に「文章の構成や展開を捉えることができる」「文章の内容をとらえて、それを具体的な事例にあてはめることができる」という問題では4ポイント近く下回った。	「構成や展開」については、今後も授業の中で継続して取り扱っていききたい。また、ワークシートなどを工夫、テスト等で様々な形式の問題を出すなど、説明文の読み取りの向上を目指したい。
文学作品の内容を読み取る	市よりも1ポイント上回ってしまった。特に1問目の「人物の心情をとらえる」では、91.9%の正答率となっている。しかし、後半に出てきた「人物の心情をとらえる」では50%となり、市よりも3.6ポイント下回った。	朝の読書に積極的に取り組んでいる生徒が多い。更に充実したものにし、文学的文章を読む機会を増やす。筆者が何を伝えたいのかを意識し、論理的に読み取ることができるよう、ワークシート等を工夫していく。特に登場人物の気持ちに関しては、行動や背景描写などに注目していくよう、指導していきたい。
古典の読解	市よりも2.2ポイント上回った。3問とも市を上回り、「歴史的仮名遣い」、「文章の内容を捉える問題」については、80%を超え、よく理解していると言える。「主語をとらえる」では、60.1%となっている。	今回の文章は全体的によく読みとれているが、まだ古文に慣れていない部分も見られる。主語を読み取ること、文章を読み取るために欠かせないことなので、主語の捉え方について説明し、何度も問題を解かせたい。
作文	市より1.0ポイント上回った。どの項目も80%を超える正答率で作文の書き方の基礎は身につけていると考えられる。ほとんどが90%を越えているが、「3段落構成で文章を書く」が80.1%で、市より2.7ポイント下回っている。	基本的な作文の書き方は身につけている。段落の構成については読解でも苦手としている部分なので、今後さらに力を入れて取り組む必要がある。構成を指定した作文を書かせるなど、書く機会を増やし、構成を意識した文章が書けるようにしたい。

# 宇都宮市立横川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の諸地域	51.7	56.9
	日本の諸地域	69.4	66.4
	近現代の日本と世界	60.5	62.1
	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	69.9	70.1
	民主政治と政治参加	65.8	56.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	51.3	53.0
	資料活用 of 技能	60.4	62.7
	社会的な事象についての知識・理解	63.1	61.9



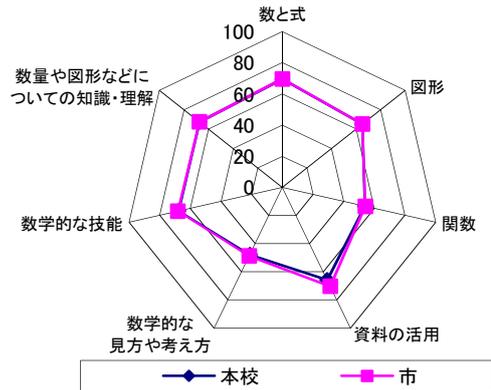
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の諸地域 全体的には、市よりも5.2ポイント正答率が低かった。ヨーロッパ州及び北アメリカ州の出題だったが、「技能」の観点に関する関連性をふまえた資料の読み取りが思うような正答が得られなかった。	地理的分野「世界の諸地域」については、教科書の重要語句やノートの赤字、手持ちのワークを再度見直させるなどして、知識の定着を図っていく。「日本の諸地域」については、手持ちのワークを中心に基礎的・基本的事項の理解度を向上させたい。 一問一答形式で重要語句の暗記を促し、基礎・基本のさらなる定着を図っていききたい。また、1・2年の学習で資料を的確に読み取るとともに、その事象について考えたり、自分の言葉で表現する力を身につけさせたい。その点から、デジタル教材を有効に活用し、グラフ等の変化や推移を視覚的に読み取らせるとともに、基礎的知識・技能を活用し、思考力や表現力を向上を図っていく。
	日本の諸地域 全体的には、市よりも3ポイント高い正答率だった。「技能」の観点に関する中京工業地帯の出荷額の割合の資料を読み取って考えるという問いが、約5ポイント市を上回った。また、中部地方の農業の特色に関する「知識・理解」については、重要語句の理解度が定着しており正答率も高かった。	一問一答形式で重要語句の暗記を促し、基礎・基本のさらなる定着を図っていききたい。また、1・2年の学習で資料を的確に読み取るとともに、その事象について考えたり、自分の言葉で表現する力を身につけさせたい。3年前半の歴史学習では、デジタル教材も有効に活用し、写真やグラフ等の変化及び戦後の経済の成長率の推移とその背景等を視覚的に読み取らせるとともに、基礎的知識・技能を活用し、思考力や表現力を向上を図って
歴史	近現代の日本と世界 全体的には、市よりも1.6ポイント低い正答率だった。明治初期から第二次世界大戦後の日本の歩みまで、理解度は高い。特に戦後の日本の民主化・政治改革及び国際社会の復帰に関する「知識・理解」は、市を7ポイントも上回るなど正答率が高かった。ただ、地理同様、資料を読み取って考えるという設問では、市を下回った。	3年の公民的分野である「人間の尊重と日本国憲法」「民主政治と政治参加」について、基礎的・基本的な内容がしっかり定着していることがわかる。 公民的分野は、実際の日常生活の事例を基に考えたり、現在の生活に深く関わる内容の学習で構成されており、日々のニュースや時事内容への理解をさらに深めさせていきたい。 知識の定着一問一答形式で重要語句の暗記を促し、基礎・基本のさらなる定着を図っていききたい。デジタル教材を活用し、教科書に掲載されている資料を的確に読み取るとともに、その事象について考えたり、自分の言葉で表現する力を身につけさせたい。また、デジタル教材の映像や音声資料(グラフに動きがはいる)及び伏せ字等を効果的に活用し、思考力や表現力を向上を図っていく。
公民	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 全体的には、市よりも0.2ポイント低い正答率だった。基本的人権と日本国憲法のしくみの内容での理解度が高く、正答率が90%をこえている設問もあった。「思考・判断・表現」の観点に関する資料を参考にして自分の言葉で表現する問いが、約7ポイント市を下回った。その他「知識・理解」については、重要語句の理解度が定着しており正答率も高かった。	
	民主政治と政治参加 全体的には、市よりも9.4ポイント高い正答率だった。全体的に日本の政治のしくみの内容での理解度が高く、正答率が市よりも20ポイント上回っている設問もあった。人間の尊重と日本国憲法同様、「思考・判断・表現」の選挙のシミュレーションに関する設問では、9ポイントも市を下回った。	

# 宇都宮市立横川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	69.5	69.6
	図形	65.1	65.2
	関数	53.8	54.1
	資料の活用	65.8	70.3
観点別	数学的な見方や考え方	47.8	48.7
	数学的な技能	67.7	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	67.4	67.5



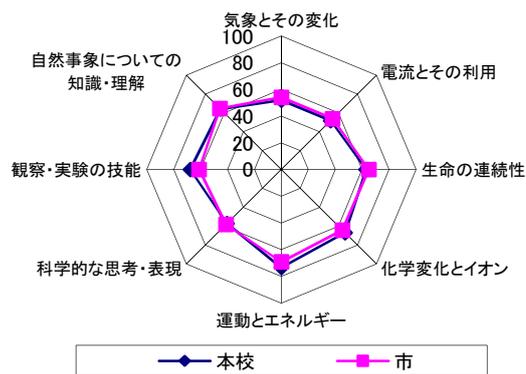
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	本年度は、宇都宮市の平均と比較して0.1ポイント下回っている。乗降公式や因数分解は理解しているが、平方根の計算や2次方程式で正答率が低くなっている。	計算の仕方をしっかり理解し、繰り返し基本的な計算を身につけさせたい。2次方程式の解の公式については計算練習を重ね、定着を図っていく。
図形	本年度は宇都宮市の平均と比較して0.1ポイント下回っている。しかし、昨年度は2.6ポイント下回っていたので、+2.5ポイント向上している。図形の証明は宇都宮市の平均を上回ったが、相似な図形での正答率が低くなっている。	図形の性質と証明では証明の内容を正しく読み取り、証明を最後まで完成させるように指導していききたい。また、色々な図形の性質を正しく理解できるように指導していききたい。
関数	本年度は、宇都宮市の平均と比較して0.3ポイント下回っている。Xの2乗に比例する関数のグラフを読み取る力はあるが、利用する問題では正答率が低下している。	基本的な関数の内容は理解しているので、式やグラフの活用の仕方を正確に指導していく。Xの2乗に比例する関数の利用が不十分であるので、応用問題を数多く解くことにより、理解を深めていく。
資料の活用	本年度は、宇都宮市の平均より4.5ポイント低下している。2年次で学習した確率の問題にをしっかり身につけるようにしたい。	2年次で学習した確率の問題を復習する機会を与え、繰り返し取り組ませる。樹系図を利用して場合の数を求めるよう指導していききたい。

# 宇都宮市立横川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	気象とその変化	51.9	54.0
	電流とその利用	51.8	53.8
	生命の連続性	63.0	65.0
	化学変化とイオン	67.0	64.2
	運動とエネルギー	73.5	69.2
観点別	科学的な思考・表現	57.1	58.2
	観察・実験の技能	67.7	61.1
	自然事象についての知識・理解	64.1	64.6



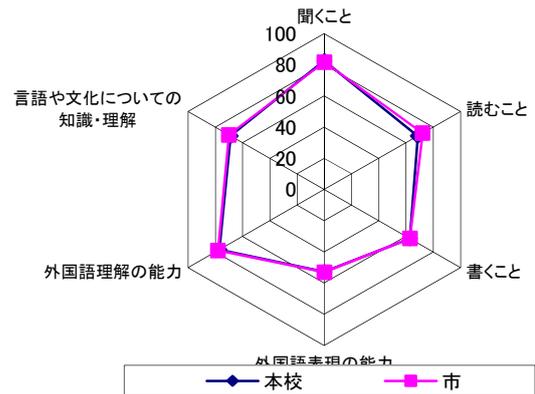
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
気象とその変化	平均正答率は、全領域の中でも低く、さらに市よりも2.1ポイントも低い。雲のでき方についての理解が不十分であり、湿度と気温・飽和水蒸気量から雲ができる(水蒸気が凝結する)温度を求める力が不足している状況である。全体的に言えることだが、計算を要する問題はあまり正答率が伸びない傾向にある。また、気圧配置からその後の天気の変化を予測する力が不足している状況。	理科に関する計算問題は限られており、パターンも多くないことから、ドリル的学習を取り入れる必要がある。理科の学習を中心に問題形式に取り組む時間を設け、計算を要する問題に慣れさせる。数値を工夫し、計算自体は簡単に、考え方を中心に指導を行い、『計算』=『難しい』という意識を取り払うような指導を心がける。天気の変化の予測については、日常的に目にする天気予報や天気図からどのような天気に変化するかを身近な問題と
電流とその利用	平均正答率は、全領域の中でも低く、さらに市よりも2ポイントも低い。熱量や電力量についての正答率が低く、計算を要する問題でつまづきが見られる。磁界の向きについて問われる問題では、電流による磁界の向きは正答率が高いのに対し、磁石による磁界の向きを正しく理解している生徒が少なかった。また、身のまわりの利用例をについての正答率が低く、授業内容と日常生活	理科に関する計算問題は限られており、パターンも多くないことから、ドリル的学習を取り入れる必要がある。理科の学習を中心に問題形式に取り組む時間を設け、計算を要する問題に慣れさせる。数値を工夫し、計算自体は簡単に、考え方を中心に指導を行い、『計算』=『難しい』という意識を取り払うような指導を心がける。電流は日常生活に切り離せない技術であり、我々の生活のどのような場面で利用されているのかを授業の中でも意識
生命の連続性	平均正答率は、市よりも2ポイント低い。特に、メンデルの法則を用い、計算によって具体的な出現個数を求める問題の正答率が低く、計算問題に対する理解が低いことを示している。	理科に関する計算問題は限られており、パターンも多くないことから、ドリル的学習を取り入れる必要がある。理科の学習を中心に問題形式に取り組む時間を設け、計算を要する問題に慣れさせる。数値を工夫し、計算自体は簡単に、考え方を中心に指導を行い、『計算』=『難しい』という意識を取り払うような指導を心がける。
化学変化とイオン	平均正答率は、市を2.8ポイント上回り、7割弱の正答率を示した。原子のつくりについて中性子と電子を混同している生徒が若干みられるが、電離の式を答える問題では正答率が7割と、市よりも10ポイントも上回る結果となっており、理解度が高いことを示している。塩化銅と水の電気分解を混同している生徒もいることが分かった。	実験が多く、興味関心も高い分野であり、比較的理解度も高かった。引き続き、実験を通して体験的な指導を行う。電気分解において発生する気体は、物質のつくりを理解したうえで導き出されるものなので、原子モデル等を利用し実体験だけでなく頭の中で行う仮想実験を行う指導も取り入れる。
運動とエネルギー	平均正答率は、市を4.3ポイント上回り、7割以上の正答率を示した。斜面を下る台車の運動を実験を通して学習した内容であり、理解度が高いことが見てとれる。全体的な正答率は高かったものの、台車の速さを求める問題において、桁違いの答えを選択する生徒が多かった。原因として、記録タイマーが0.1秒で5打点であるところ、1秒で5打点ととらえてしまったと考えられ、実験結果の	実験結果の分析については、グラフや表を用いているが、今回のように、実験器具の特性による注意点をしっかりと押さえておく必要がある。また、日常生活の中の『速度』を挙げ、答えの数値と状況とが一致するかどうか感覚的に身につけることによって、桁違いの答えが出たときに疑うことができる。実験などの体験的学習とともに、教師側から具体的な例を挙げ、考えさせることによってこのような力を養う指導をおこなっていく。

# 宇都宮市立横川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	82.4	81.7
	読むこと	68.6	72.2
	書くこと	62.8	62.8
観点別	外国語表現の能力	52.8	53.0
	外国語理解の能力	77.1	78.1
	言語や文化についての知識・理解	68.8	70.0



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	宇都宮市の平均よりも高い正答率であった。単純な内容を聞き取ることはほとんどの生徒が出来るのだが、複雑な内容を正確に聞き取ることは難しいようである。しかし、聞き取る力は伸びてきている。	日々の学習において、聞き取る力を重視して指導している。その結果が少しずつ出てきていると思われる。しかし、基本的な内容は聞き取ることが出来るのだが、複雑な内容は聞き取ることができない生徒が多い。ALTとの授業を上手に活用し、英語を聞いたり、話したりするコミュニケーション活動を多く取り入れ、リスニング力をつけていきたいと考えている。
読むこと	宇都宮市の平均よりも少し低い正答率であった。文章を読み、その内容を正確に理解できている生徒が多いが、少し複雑な内容になると理解できない生徒もいる。	日々の学習において、本文の内容を理解させる授業を展開はしているが、長文になると読解を嫌がってしまう生徒が多い。読解のコツを教え、まずは短い文や小段落から読ませることによって、長文読解への抵抗を減らしていくようにしたい。また、日ごろから声を出して音読することの重要性を指導している。徐々に声が出なくなってしまう年代に入ってきているが、粘り強く指導したい。また時間を計って読むことにより、速く正確に読む練習も
書くこと	宇都宮市の平均よりも低い正答率だった。言語や文化に関する基本的な語彙や文法の問題においても理解度は決して高くない。基礎的事項がそのような傾向なので、発展的な表現や英作文の問題は苦手の生徒が多い。	基本本文の暗唱やドリル学習を行っている。授業中は意欲的に取り組み成果を残している。しかし、家庭学習が継続的に行われず、なかなか積み重ならないので、家庭学習に力を入れる工夫を考えたい。また、基本本文を覚えることが表現力アップにつながることをしっかりと意識させたい。そのため、日ごろの授業のコミュニケーション活動の中で得られる情報をもとに、基本本文を十分に使い、英文を書かせる指導を継続して行っていきたい。